礼儀作法 2 － 飲食の礼儀作法

［ 日本語 ］

كتاب الآداب – آداب الأكل والشرب

[اللغة اليابانية]

ムハンマド・ブン・イブラーヒーム・アッ＝トゥワイジリー

محمد بن إبراهيم التويجري

翻訳者： サイード佐藤

ترجمة: سعيد ساتو

校閲者： ファーティマ佐藤

مراجعة: فاطمة ساتو

海外ダアワ啓発援助オフィス組織（リヤド市ラブワ地区）

المكتب التعاوني للدعوة وتوعية الجاليات بالربوة بمدينة الرياض

1428 － 2007

2－飲食の礼儀作法

●　　ムスリムの食物は合法的かつよいものであること：

1－至高のアッラーは仰られました：

信仰する者たちよ、われら（アッラーのこと）があなた方に与えたよきものを食べよ。そしてあなた方が本当にかれ（アッラー）を崇拝するのなら、かれに感謝せよ。（クルアーン2：172）

2－至高のアッラーはこう仰られました：

トーラーと福音書の中に記されているのを彼ら（啓典の民）が見出すところの、文盲の使徒、預言者に従う者たち。彼こそは善を勧め悪を禁じ、彼らによきものを合法なものとし、悪しき物を彼らに禁じる。（クルアーン7：157）

●　　食事前にアッラーの御名を唱え、自分の手前にある物から手を付けること：

1－ウマル・ブン・アビー・サラマ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）時代、私は幼い子供でした。そして私の手は、（食事の載っている）皿の上を（お目当ての物を探して）さまよっていたものです。それでアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は私に言いました：“僕、アッラーの御名を唱えるんだ。そして右手で、自分の手前の物から食べ始めるんだぞ。”そして私は現在に至るまで、その食べ方に従っているのです。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[1]）

2－イブン・マスウード（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“食事前にアッラーの御名を唱えることを忘れた者は、それを思い出した時にこう唱えるのだ：「（この食事の）始まりと終わりに、アッラーの御名において。」そうすれば彼は新たに食事に向かい、被るはずだった悪しき物を回避することが出来るのだ。”」（イブン・ヒッバーンとイブン・アッ＝スンニーの伝承[2]）

●　　右手で飲食すること：

イブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「食べる時は右手で食べよ。そして飲む時は右手で飲むのだ。というのもシャイターン（悪魔）こそが左手で食べ、左手で飲むのだから。」（ムスリムの伝承[3]）

●　　飲んでいる時、容器の外で息をつくこと：

---

[1] サヒーフ・アル＝ブハーリー（5376）、サヒーフ・ムスリム（2022）。文章はアル＝ブハーリーのもの。

[2] 真正な伝承。サヒーフ・イブン・ヒッバーン（5213）、イブン・アッ＝スンニー（461）。アッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（198）参照。

[3] サヒーフ・ムスリム（2020）。

アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は（何かを）飲む時、3度呼吸を置いたものでした。そしてこう言いました：“（これは）最も潤わせ、（渇きの苦しみを）癒し、喉心地のよいものである。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[4]）

● **他人に飲ませる方法：**

アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のところに、水で薄められた乳が運ばれて来ました。彼の右側にはベドウィンの男、左側にはアブー・バクルがいましたが、彼は自らそれを飲んでから、それをベドウィンの男に渡しました。そしてこう言いました：“右から右に（優先的に回すのだ）。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[5]）

● **立って飲まないこと：**

1－アブー・サイード・アル＝フドゥリー（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は立ちながら飲むことを禁じました。（ムスリムの伝承[6]）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は立ちながら飲んでいる男を見て、こう言いました：「“それをやめよ。”（男は）言いました：“なぜですか？”（預言者は）言いました：“猫と一緒に（何か）飲んだら、嬉しいか？”（男は）言いました：“いいえ。”（預言者は）言いました：“（今しがた）あなたと一緒に飲んだのは、それより悪いもの、つまりシャイターン（悪魔）なのだ。”」（アフマドとアッ＝ダーリミーの伝承[7]）

● **金や銀製の器で飲食しないこと：**

フザイファ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私は預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：“絹や錦をまとってはならない。そして金や銀で出来た器で飲んだり、食べたりしてはならない。それらは現世において彼ら（不信仰者たち）のものであり、来世においては私たちのためのものであるからなのだ。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[8]）

● **食事の仕方：**

---

[4] サヒーフ・アル＝ブハーリー（5631）、サヒーフ・ムスリム（2028）。文章はムスリムのもの。
[5] サヒーフ・アル＝ブハーリー（2352）、サヒーフ・ムスリム（2329）。文章はムスリムのもの。
[6] サヒーフ・ムスリム（2025）。
[7] 真正な伝承。ムスナド・アフマド（7990）、スナン・アッ＝ダーリミー（2052）。アッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（175）参照。
[8] サヒーフ・アル＝ブハーリー（5426）、サヒーフ・ムスリム（2067）。文章はアル＝ブハーリーのもの。

1ーカアブ・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は3本の指で食べ、（食べ終わった後には）手を拭く前にそれらをなめたものでした。」（ムスリムの伝承[9]）

2ーアナス（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は食事する時には、3本の指をなめたものでした。またこう言ったものでした：「もし1口分（の食事）が（床や地面に）落ちてしまったら、汚れを取り除いて食べるのだ。シャイターン（悪魔）のためにそれを残してはならない。」そして（アッラーの使徒は）器を（最後まで）綺麗に食べることを命じました。彼は言ったものです：「あなた方は食物のどこに祝福があるか分からないのだ。」（ムスリムの伝承[10]）

3ーイブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼は、同席の者たちの許可なしにナツメヤシの実を2ついっぺんに食べることを禁じられました。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[11]）

4ーアブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「あなた方は右手で飲食し、右手で物の受け渡しをするのだ。というのもシャイターン（悪魔）こそは左手で飲食し、左手で物の受け渡しをするからである。」（イブン・マージャの伝承[12]）

- **食べる分量：**

ミクダーム・ブン・マァディー・カリブ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私は、アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：“人間が満たす最悪の器とは、その胃に他ならない。アーダムの子ら（人類）は、背中を真っ直ぐに支えるだけの（少量の）食事で十分なのである。しかしもしやむを得ない場合には、（胃の）3分の1を食事に、そしてもう3分の1を飲み物に、そしてもう3分の1を（空っぽのままにして）呼吸のために当てるのだ。”」（アッ＝ティルミズィーとイブン・マージャの伝承[13]）

- **食事に難癖を付けないこと：**

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）が食べ物に難癖を付けることは、全

---

[9] サヒーフ・ムスリム（2032）。
[10] サヒーフ・ムスリム（2034）。
[11] サヒーフ・アル＝ブハーリー（2455）、サヒーフ・ムスリム（2045）。文章はムスリムのもの。
[12] 真正な伝承。スナン・イブン・マージャ（3266）、サヒーフ・スナン・イブン・マージャ（2643）。アッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（1236）参照。
[13] 真正な伝承。スナン・アッ＝ティルミズィー（2380）、サヒーフ・スナン・アッ＝ティルミズィー（1939）、スナン・イブン・マージャ（3349）、サヒーフ・スナン・イブン・マージャ（2704）。文章はアッ＝ティルミズィーのもの。

くありませんでした。おいしければ食べ、気に入らない時は手を付けませんでした。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[14]）

- **食べ過ぎないこと：**

イブン・ウマル（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者は言いました：「不信仰者は7本の腸（が満たされるま）で食べるが、信仰者は腸1本（を満たすほどに）食するのみである。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[15]）

- **食事をご馳走し、それにより人を慰安させることの徳：**

1－ジャービル・ブン・アブドッラー（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました："1人分の食事は2人（が食べるの）に十分であり、2人分の食事は4人（が食べるの）に十分であり、4人分の食事は8人（が食べるの）に十分なのである。"」（ムスリムの伝承[16]）

2－アブドッラー・ブン・アムル（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、ある男が預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）に訊ねました：「"イスラームにおける最善（の特質、行為）とは何ですか？"（預言者は）言いました："食事をご馳走し、知る者にも知らない者にも挨拶することである。"」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[17]）

3－アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は食べ物が持って来られるとそれを食べ、そして余った分を私に送ってくれたものでした。」（ムスリムの伝承[18]）

- **食事を称えること：**

ジャービル・ブン・アブドッラー（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はパンと付け合せにするおかずを家族に求めました。すると（彼の家族は）言いました：「"（今）私たちのもとには酢しかありません。"すると彼はそれを持って来させると、それでパンを食べ始めました。そして言いました："酢は何とよき食事であろう。酢は何とよき食事であろう。"」（ムスリムの伝承[19]）

- **飲み物の中に息を吹き込まないこと：**

アブー・サイード・アル＝フドゥリー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はコッ

---

[14] サヒーフ・アル＝ブハーリー（5409）、サヒーフ・ムスリム（2064）。文章はアル＝ブハーリーのもの。
[15] サヒーフ・アル＝ブハーリー（5393）、サヒーフ・ムスリム（2060）。文章はムスリムのもの。
[16] サヒーフ・ムスリム（2059）。
[17] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6236）、サヒーフ・ムスリム（39）。文章はアル＝ブハーリーのもの。
[18] サヒーフ・ムスリム（2053）。
[19] サヒーフ・ムスリム（2052）。

プの割れ目から飲むこと、そして飲み物の中に息を吹き込むことを禁じられました。」（アブー・ダーウードとアッ＝ティルミズィーの伝承[20]）

● **飲み物を注ぐ者自身が飲む順番は、最後であること：**

アブー・クターダ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は私たちに説教しました。－中略－そして言いました：“人々に飲み物を注ぐ者は、彼らの中で最後に（それを）飲む者である。”」（ムスリムの伝承[21]）

● **集まって食事すること：**

ワハシー・ブン・ハルブがその父、その父がその祖父から伝えるところによれば、預言者の教友たち（彼らにアッラーのご満悦あれ）はこう言いました：「“アッラーの使徒よ、私たちは食べても満腹しません。”（預言者は）言いました：“あなた方は別々に食べるのであろう。”（彼らは）言いました：“はい。”（預言者は）言いました：“集まって食事するのだ。そして食事の際にアッラーの御名を唱えよ。（アッラーは）あなた方のためにそれに祝福を与えて下さるであろう。”」（アブー・ダーウードとイブン・マージャの伝承[22]）

● **客人をもてなし、自ら仕えること：**

1－至高のアッラーは仰られました：﴿
あなたに、イブラーヒームの貴い客人たちの話は伝わったであろう。彼らは彼のもとを訪れると挨拶し、彼（イブラーヒーム）も言った：「あなた方にも平安あれ。見慣れぬ方々よ。」そして彼は家族のもとへ赴くと、太った子牛（の肉）を携えて来た。そしてそれを彼らに差し出したが、（彼らがそれに手を付けようとしないのを見て）言った：「食べないのですか？」﴾（クルアーン51：24－27）

2－アブー・シュライフ・アル＝カァビー（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「アッラーと最後の日を信じる者は、客人をもてなすのだ。（最初の）1昼夜は丁重にもてなし、2日目と3日目は通常のもてなし方をし、その後（のもてなし）は*サダカ*（慈善行為）である。そして客は、主人が当惑するまで滞在することを許されない。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[23]）

● **食事中の座り方：**

---

[20] 真正な伝承。スナン・アブー・ダーウード（3722）、サヒーフ・スナン・アブー・ダーウード（3165）、スナン・アッ＝ティルミズィー（1887）、サヒーフ・スナン・アッ＝ティルミズィー（1538）。文章はアブー・ダーウードのもの。

[21] サヒーフ・ムスリム（681）。

[22] 良好な伝承。スナン・アブー・ダーウード（3764）、サヒーフ・スナン・アブー・ダーウード（3139）、スナン・イブン・マージャ（3286）、サヒーフ・スナン・イブン・マージャ（2657）。文章はアブー・ダーウードのもの。

[23] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6135）、サヒーフ・ムスリム（48）。文章はアル＝ブハーリーのもの。

1ーアブー・ジュハイファ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“私は寄りかかりながら食べない。”」（アル＝ブハーリーの伝承[24]）

2ーアナス（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私は預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が臀部を床に付けて両膝を立てながら座り、ナツメヤシの実を食べているのを見ました。」（ムスリムの伝承[25]）

3ーアブドッラー・ブン・ブスル（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「ある時預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）に羊が1頭贈られました。アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は両膝をついてそれを食べましたが、（それを見た）ベドウィンの男は言いました：“その座り方は何だ？”すると（預言者は）言いました：“アッラーは私を慎み深いしもべとされたのであり、高慢で頑迷な者とはされなかったのだ。”」（アブー・ダーウードとイブン・マージャの伝承[26]）

- **忙しい者の食事の仕方：**

アナス（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のもとに、ナツメヤシの実が持って来られました。預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は（その時彼が従事していた仕事ゆえに）それを急いで（人々に）分配すると、それを手早く食べました。」またズハイルの伝承にはこうあります：「せき立てられるように食べました。」（ムスリムの伝承[27]）

- **水の容器に蓋をし、寝る前にそこにアッラーの御名を唱えること：**

ジャービル・ブン・アブドッラー（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「‐中略‐そして扉を閉め、アッラーの御名を唱えよ。そして灯りを消し、アッラーの御名を唱えよ。また水袋（の口）を閉じ、アッラーの御名を唱えよ。そしてそこに何かを載せるだけでもよいから、容器に蓋をし、アッラーの御名を唱えよ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[28]）

- **使用人と共に食事すること：**

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「使用人があなた方に食べ物を（作り、それを）携えてやって来て、そして彼があなた方と共に座って

---

[24] サヒーフ・アル＝ブハーリー（5398）。
[25] サヒーフ・ムスリム（2044）。
[26] 真正な伝承。スナン・アブー・ダーウード（3777）、サヒーフ・スナン・アブー・ダーウード（3207）、スナン・イブン・マージャ（3263）、サヒーフ・イブン・マージャ（2640）。文章はイブン・マージャのもの。
[27] サヒーフ・ムスリム（2044）。
[28] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3280）、サヒーフ・ムスリム（2012）文章はアル＝ブハーリーのもの。

食べないのなら、彼に（その量や状況に応じて）1食か2食分、あるいは1口か2口分食べさせてやるのだ。彼は（それを調理するため）暑さや（火傷などの）怪我を我慢したのであるから。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[29]）

● **夕食が用意されたら、イシャー（夜の礼拝）を急がないこと：**

アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「夕食が用意され、そしてイシャー（夜の礼拝）が始まったら、先に夕食に取り掛かるのだ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[30]）

● **皿からいかに食べるか：**

イブン・アッバース（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「食事する時は皿の上の方からではなく、下の方（手前）から食べるのだ。というのも祝福は皿の上の方から下って来るからである。」（アブー・ダーウードとイブン・マージャの伝承[31]）

● **食事をしたり、ミルクを飲んだりする時の言動：**

1ーイブン・アッバース（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、－中略－アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「食事をする時は、こう言うのだ：“アッラーよ、これを私たちにとって祝福深いものとして下さい。そしてこれよりよきものを私たちにお恵み下さい。”また、ミルクを飲む時にはこう言うのだ：“アッラーよ、これを私たちにとって祝福深いものとして下さい。そしてこれを私たちに、豊富にお恵み下さい。（それ自体で）食べ物と飲み物の代わりになるのは、ミルクしかないのですから。”」（アブー・ダーウードとアッ＝ティルミズィーの伝承[32]）

2ーイブン・アッバース（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はミルクを飲んだ後、水を持って来させてうがいをしました。そして言いました：「ミルクには脂肪分があるからな。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[33]）

● **食後に言う言葉：**

---

[29] サヒーフ・アル＝ブハーリー（5460）、サヒーフ・ムスリム（1663）。文章はアル＝ブハーリーのもの。

[30] サヒーフ・アル＝ブハーリー（5463）、サヒーフ・ムスリム（557）。文章はアル＝ブハーリーのもの。

[31] 真正な伝承。スナン・アブー・ダーウード（3772）、サヒーフ・スナン・アブー・ダーウード（3206）、スナン・イブン・マージャ（3277）、サヒーフ・イブン・マージャ（2650）。文章はアブー・ダーウードのもの。

[32] 良好な伝承。スナン・アブー・ダーウード（3730）、サヒーフ・スナン・アブー・ダーウード（3173）、スナン・アッ＝ティルミズィー（3455）、サヒーフ・スナン・アッ＝ティルミズィー（2749）。文章はアブー・ダーウードのもの。

[33] サヒーフ・アル＝ブハーリー（211）、サヒーフ・ムスリム（358）。文章はムスリムのもの。

1－ムアーズ・ブン・アナス（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「食事を終えた後、“私の力が少しも介在しないところにおいて、この食事を私にお恵みになられたアッラーにこそ全ての賞賛あれ。”と言った者は、それ以前に犯した罪を赦されるであろう。」（アブー・ダーウードとイブン・マージャの伝承[34]）

2－アブー・ウマーマ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は食事を終える時にこう言いました：「限りない、素晴らしい、祝福された讃美で私たちの主アッラーを称えます。私たちの主よ、（かれに対しての）讃美はこれで充分ということはなく、またそれは途絶えることもなく、かつ不可欠です。」（アル＝ブハーリーの伝承[35]）

3－アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は食べたか飲んだかした後には、こう言ったものでした：“食べさせ、飲ませられ、そしてそれら（を摂取すること）を容易にされ、かつその（排泄の）ための出口を創って下さったアッラーにこそ全ての賞賛あれ。”」（アブー・ダーウードの伝承[36]）

4－アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“実にアッラーは、しもべが食べ物を食べて、それゆえにアッラーを賞賛することをお悦びになられる。あるいは（しもべが）飲み物を飲んで、それゆえにアッラーを賞賛することをお悦びになられる。”」（ムスリムの伝承[37]）

5－「アッラーよ、あなたは（私たちに）食べさせ、飲ませ、（私たちを）豊かにし、与え、導き、生かして下さいました。（全て）あなたがお恵みになられたものゆえ、全ての賞賛はあなたにこそあるのです。」（アフマドの伝承[38]）

6－アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“アッラーがお恵みになったある恩恵に対して、しもべが「アッラーに全ての賞賛あれ」と言えば、彼は彼の得たその恩恵よりももっとよいものを授かるであろう。”」（イブン・マージャの伝承[39]）

- **客の入室と退出の頃合：**

---

[34] 良好な伝承。スナン・アブー・ダーウード（4023）、サヒーフ・スナン・アブー・ダーウード（3394）、スナン・イブン・マージャ（3285）、サヒーフ・イブン・マージャ（2656）。文章はアブー・ダーウードのもの。

[35] サヒーフ・アル＝ブハーリー（5458）。

[36] 真正な伝承。スナン・アブー・ダーウード（3851）、サヒーフ・スナン・アブー・ダーウード（3261）。

[37] サヒーフ・ムスリム（2734）。

[38] 真正な伝承。ムスナド・アフマド（16712）。アッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（71）参照。

[39] 良好な伝承。スナン・イブン・マージャ（3805）、サヒーフ・イブン・マージャ（3067）。

至高のアッラーは仰られました：﴿
信仰する者たちよ、預言者の家に食事に呼ばれても、その準備がされるのを待たずに入って来てはならない。そして（入りなさい、と）呼ばれた時に、初めて入るのだ。食事が終わったら解散し、くつろいで長話に耽ってはならない・・・﴾（クルアーン33：53）

● **食事を振舞った者に対する、客の*ドゥアー*（祈願）：**

1－「アッラーよ、あなたが彼らにお恵みになったものにおいて、彼らを祝福して下さい。そして彼らをお赦しになり、彼らにご慈悲をおかけ下さい。」（ムスリムの伝承[40]）

2－アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がサアド・ブン・ウバーダを訪問した時、彼（サアド）はパンと油を持って来ました。預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はそれを食べると、こう言いました「あなた方のもとで*サーイム*[41]たちが*サウム*（斎戒、いわゆる断食）を解き、正しくよき人々があなた方の食べ物を食べ、あなた方に対し天使たちがお赦しを祈ってくれますように。」（アブー・ダーウードとイブン・マージャの伝承[42]）

● **飲み物を与えてくれた、あるいはそうしようとした者への*ドゥアー*（祈願）：**

「アッラーよ、私に食事を施した者に食事を恵みたまえ。そして私に飲み物を与えた者に飲み物を与えたまえ。」（ムスリムの伝承[43]）

---

[40] サヒーフ・ムスリム（2042）。
[41] 訳者注：つまりサウムを行う者のこと。
[42] 真正な伝承。スナン・アブー・ダーウード（3854）、サヒーフ・スナン・アブー・ダーウード（3263）、スナン・イブン・マージャ（1747）、サヒーフ・イブン・マージャ（1418）。
[43] サヒーフ・ムスリム（2055）。